実践速報

教育システム情報学会誌　Vol. 29, No. 1　2012
pp. 63–68

特集：実用的 e ラーニング環境の構築と運用

高等教育における内部質保証に向けた授業ピアレビューの実践

加藤由香里*

Collaborative Peer Review Practice for Quality Assurance in Higher Education

Yukari KATO*

1. はじめに

全国の大学において，自己点検や自己評価が盛んに行われており，組織的な教育の内容や方法の改善（ファカルティ・ディベロップメント；FD）への関心も高まっている．しかし，高等教育において教育研究を進める場合，「授業の内容が異なり自分の授業とのつながりが見えない」，「授業に直接役立つノウハウでなく，大学の授業とは何かといった原理的な問題が扱われるので二の足を踏む」という意見が大学教員の間に根強くあり，心理的な抵抗感は存在する．

読売新聞が実施した「大学の実力」調査（2008）においても，「個々の教員が他の教員の領域や教育方法に踏み込みにくい，踏み込まない風土がある」と回答した大学が 70％にも上る．加えて，FD の阻害要因を「FD の推進方法や成果把握の手法が未成熟」と指摘した大学が 60％，「FD 推進のリーダーや専門家がいない」とした大学が 40％と続く [(1)]．

長い間，聖域と考えられてきた大学の教育改善には，画一的な教授法を提案するだけでは受け入れられにくい [(2)]．むしろ，自らの経験や勘に頼って行われている「授業実践」から他者にも有効に利用できる要素は何かを検討していくこと，個別の事例から得られた知見が，他のどのような場合に適用可能かを検討して理論化していくことが必要とされている [(3)]．つまり，他の領域でも適用が可能な教育技術の改善・開発を「研究的な視点」から実践していく体制づくりが求められている．

2. 教育改善のための授業観察の実践

本研究では，授業観察者が授業風景の収録を行いながら，その授業のコメントを記録できるシステム（FD Commons）[(4)] を開発し，それを利用した授業観察プロジェクト [(5)～(7)] を進めてきた．

図 1 に示すように，2008 年から 2010 年まで教育

図 1　授業観察システム（FD Commons）による授業観察の実践

* 東京農工大学（Tokyo University of Agriculture and Technology）
受付日：2011 年 5 月 6 日；再受付日：2011 年 7 月 19 日；採録日：2011 年 8 月 17 日